

## 3・5 WTO

### 3・5・1 ドーハ・ラウンドの動き

#### 1. ドーハ・ラウンド全体の動き

2001年11月から交渉が開始された世界貿易機関(WTO)新ラウンド(ドーハ・ラウンド)は、海運を含むサービス分野等、計8分野での交渉一括合意を目指したものの、膠着状態が続いたことから、2013年12月にインドネシア・バリで開催された第9回WTO閣僚会議において全分野一括合意を断念し、まずは貿易円滑化・農業・開発の3分野での合意を目指す「バリ・パッケージ」の妥結に至った。しかしながら、これまでのところ、貿易円滑化で部分合意に達した以外、サービス分野も含めて大きな成果は得られていない。

#### 2. 海運を含むサービス自由化交渉の動き

海運サービスは過去のWTO交渉において、サービス貿易自由化に係るWTO協定(GATS)適用が合意されていない分野であるため、現在のドーハ・ラウンドにおいてサービス分野の一部としてGATS適用に向けた交渉が行われている。

しかしながら、ドーハ・ラウンドでは参加国・地域が多岐に亘る等の理由により、交渉が難航・長期化しているため、2012年、WTOに加盟する有志国・地域は「新サービス貿易協定(TiSA: Trade in Services Agreement)」策定に向けた交渉を開始、日本も2013年から同交渉に参加(注1)し、海運分野の交渉にも参画している。

TiSA交渉は2016年内の協定合意の可能性も取り沙汰されたものの、一部の分野で交渉が頓挫、2020年3月時点では先の見通しが立たない状況となっている。

注1:新サービス貿易協定交渉参加国・地域(2016年3月現在)

日本、米国、EU、カナダ、豪州、韓国、香港、台湾、パキスタン、ニュージーランド、イスラエル、トルコ、メキシコ、チリ、コロンビア、ペルー、コスタリカ、パナマ、ノルウェー、スイス、アイスランド、リヒテンシュタイン、モーリシャス(合計23カ国・地域(EU各国を含めると50カ国・地域))

### 3・5・2 WTO加盟状況

2020年3月現在、WTO加盟国数は164カ国・地域(アジア地域からは23カ国・地域)、加盟交渉中の国は21カ国となっている(注2)。

2018年8月には、米国のトランプ大統領が米国のWTO脱退を示唆。2019年12月には、WTO上級委員会委員在任3名(定員7名)中2名の任期満了に伴う欠員補充を米国が承認せず、審理に必要な人数を満たせなくなったことから、WTOの紛争処理機能が実質的に停止した。これを受けて、WTO加盟国の一部は緊急措置としての暫定的な上訴制度設置を目指すことで合意したが、WTOの意思決定は原則全会一致方式であるため状況は膠着している。

注2:外務省HP(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/wto/data/kamei.html>)より引用